

第 1 回ワークショップの意見の整理

○第 1 回ワークショップでは、さまざまな観点からワークショップの進め方や山田地域の課題についてご意見をいただきました。

○皆様からいただいたご意見を整理したところ、5つの視点にまとめることができました。

視点		第 1 回ワークショップでいただいた主なご意見
① 地域拠点を核とした活性化	地域の活性化	● 自然環境の維持や再生可能エネルギーの活用、UI ターンの推進などを検討しながら、40 年後の山田地域をどのような地域にしたいのかといったまちづくりの方向性を考えていく必要がある。 ● 将来的な人口減少は、何も取り組まなかった場合の数値だろう。人口減少に伴い、ただ公共施設を減らすという議論だけではなく、人口減少にどのような対策を講じるかなどについても議論していきたい。 ● 人口減少が進むなかで、どうやったら自分たちの子ども世代をはじめとした若者たちが住み続けることができるのか、移り住んでくれるのか、その世代の意見や視点を参考にしながら公共施設のあり方を検討し、まちづくりの方向性を考えていきたい。 ● 地域外から山田地域に移住したいという人がいても家を建てる土地がないと思う。新たに住んでくれる人を受け入れられる環境をつくりたい。

視点	第1回ワークショップでいただいた主なご意見
	● 人口減少が進み田畑の維持が難しくなると思うが、循環型農業や都市型農業ができる環境をつくり、空き家活用等をして移住できるようにすれば、農業に関心のある人は移住に関心を示すと思う。 ● 市営住宅の空き部屋は、外からの移住者に住んでもらえば良い。 ● コンパクトシティの考え方は理解しているが、人口減少しても山田地域を守っていききたい。さらに言えば、地域の繋がりや顔が見える関係づくりを大切にしながら地域づくりに取り組んでいききたいが、一方で時代に合わせたリモートやオンラインの活用も必要になってくるだろう。うまくバランスをとりながらまちづくりを進めていききたい。
地域の拠点づくり	● 子どもたちが大人になったときにあって良かったと思える施設を残したい。山田地域は小学校、中学校、保育所と住民が地域全体で運動会を実施するところなので、皆が一緒に使える複合施設が一つあると良いと思う。 ● 公共施設が様々な場所に点在していて利用しにくい。災害時に水害等で危険性が低い総合体育センター周辺に様々な機能を持った複合施設を整備してはどうか。一つにまとめることでコスト削減にもつながると思う。 ● 中核型地区センターは老朽化しているため、農協や郵便局等の民間施設も含めて山田公民館に複合化し、維持管理の効率化をはかり、地域の核となる施設にしていきたい。地区センターは駐車スペースがないのでそういった視点でも利用しやすくなるのではないかな。

視点	第1回ワークショップでいただいた主なご意見
	● 中核型地区センターは昔の役場なので、旧山田村時代の資料があるはずである。公民館と一緒にするとしたら、保管場所を確保するのが難しくなるのではないか。 ● 昔から学校は地域の核になってきた。セキュリティ面の対策を練りながらも、地域住民も学校を利用でき、交流を図れるような使い方を検討してほしい。 ● 児童館など子どもたちが利用している施設にも空き部屋があるので、福祉施設が利用できるようにして単身の高齢者等と子どもたちが交流できるようにするのはどうか。さらに言えば、子どもたちが利用する施設と福祉・介護施設を複合化するのも良いと思う。 ● 人口減少や高齢化は進んでいて厳しい状況であるが、住民間で協力をし合いながら対策を練っていきたい。 ● 山田交流促進センターはエレベーターがなく、高齢の方などには利用しづらい建物である。 ● 南砺市利賀行政センターには、様々な機能が1つの場所に揃っている。山田地域の公共施設も場所を集約したり、施設を複合化するなどできるのであれば、そのような利便性の良い使い方が出来たらよい。

視点		第1回ワークショップでいただいた主なご意見
②地域資源の有効活用	地域資源の活用	● 温泉を活かし、魚の養殖などを行うことで、地域ブランドを創出するようなまちづくりができると面白いと思う。 ● 山田地域は、レクリエーション施設や観光施設が多くあることが特徴である。外部の方をはじめ、より多くの方々に利用していただけるような方策を検討することが必要である。市内の小・中学校に学校の授業で利用してもらえるような働きかけをしても良いのではないかな。 ● 流入人口や観光客を増やすことをめざして旧山田村時代はまちづくりを進めていた。そのため、観光に特化した地域づくりで活性化をはかろうと、スキー場周辺に観光施設を集中して一体的に運営をしていた。今はその施設の運営主体が施設ごとに異なるために、運営上の課題もあるようだが、そういった背景や事情があることを踏まえて、公共施設のあり方を検討していきたい。 ● 牛岳温泉スキー場は、市街地からも近く利用しやすい。最近では暖冬の年も多いので、人工造雪多目的施設があることは、本スキー場の強みである。人工造雪多目的施設をうまく使えば子どもたちの楽しみや地域の活性化に繋がると思う。 ● 牛岳温泉スキー場は、運営面を改善するためにも、冬だけでなく夏場の利用を検討した方が良い。サマースキーや大学の合宿場所として誘致するなど、スキー場を核として観光客等を呼び込むことで収益を生み出す方策を考えれば、宿泊施設など他の観光施設にも良い影響を生み出せるだろう。 ● オペレーターが高齢化していることから、山田地域の温泉やスキー場までの道路の除雪が芳しくないという課題がある。どのように除雪体制を維持し、冬場のアクセスを確保するのか考えていきたい。

視点		第1回ワークショップでいただいた主なご意見
		● 牛岳温泉健康センターとふれあいの里ささみねは隣接していることもあり一体的に利用したいが、連携がとれていないようだ。それぞれの施設の運営が別組織のせい、地域の活性化につながるような運営がされていない。民間企業に一体的に運営をしてもらうのが良い。
	利用の促進	● 市は、利用率が低いと不要だと判断してしまうが、地域が必要だと判断する施設については市にも協力してもらったり、他地域から利用をしてもらうことを考えた方が良い。地域内だけで利用率をあげようとしても限界がある。他地域の取組みを参考にしたい。 ● 利用率を上げるのであれば PR をするなどして他地域の人たちに使ってもらう何らかの工夫をすることが大事である。 ● 山田総合グラウンドは、いつでも空いているが遠いと言われるので、利用料金を安くするなどして遠くても利用したくなるようなメリットをつくることで利用率を上げるのが良いのではないか。

視点	第1回ワークショップでいただいた主なご意見
③ 子育て環境の充実	● 小規模校入学特別認可制度を導入したり、山田地域として教育に特色を持たせることで、他地域から山田地域の学校に通学させたいと思ってもらえるような特色をつくっていきたい。 ● 山田地域の学校に地域外から通学している子どもがいる。潜在的に山田地域の学校に通いたいと思う子どもや、通わせても良いと考える親が他地域にはいるのではないか。 ● 少子化が進み、年々、小・中学校の児童・生徒数が減少している。他地域の学校は、大人数で切磋琢磨しながら学校生活を送っている中、少人数の学校生活は果たして子どもたちのためになるのか、という思いはある。 ● 今後は、時代に合わせたオンライン教育等も考える必要があるのではないか。 ● 保育所も老朽化が進み、園児の人数が減少し、存続が危ぶまれているが、山田地域の将来に関わることであるので議論を深めていきたい。

視点	第1回ワークショップでいただいた主なご意見
④ 安全性の確保	● ハザードマップを参考に、危険性が高いところはできるだけ住居や施設を配置しないようにまちづくりを進めてほしい。 ● 近年各地で震災や豪雨が発生していることを考えると、山田地域は土砂災害警戒区域に多くのエリアで指定されていることからわかるように、山田公民館も避難所として安全とは言えず、川もあるためにアクセス面でも危険である。施設としての安全性とアクセスの確保もしっかり考えた上で、どこを避難所にするべきか検討していく必要がある。 ● 富山市が第1次避難所指定している交流促進センターや総合体育センター、また、地区ごとで避難所として位置付けている公民館も、川の氾濫や土砂崩れ等の危険性が高く、避難所としての課題があり不安である。 ● 新型コロナウイルス感染症のことも考え、避難所は複数の場所で機能できるようにしておきたい。 ● どの公共施設を集約化・複合化するかは、各施設の老朽具合や耐震性を確認しながら検討していきたい。さらに言えば、そのような公共施設のあり方についてのみを検討するのではなく、各施設の空きスペースの利活用のあり方も検討していきたい。 ● 山田中核型地区センターは老朽化しており、耐震性も心配である。また、災害時に川が氾濫するなどして、防災無線等の通信機器が使用できなくなる可能性もある。今回の取組みを機に、災害時に機能する安全な場所に配置するよう検討するべきである。

視点	第1回ワークショップでいただいた主なご意見
⑤ 将来負担の軽減	● 将来的な人口減少から将来の子どもたちの負担を考えると、施設を整理する必要があると思った。利用率の低い公共施設は集約化や廃止を検討して良いと思う。 ● 人口減少に伴い、機能が重複している施設是集約し、空きスペースは有効活用することで各施設の利用率をあげていきたい。 ● 森のコテージ木 MAMA はキャンプ施設だが、民泊にしたり、市民に売却するなどして、もっと利用されるための方法を考えてはどうか。また、山田地域には農地もたくさんあるので、森のコテージ木 MAMA などの既存施設を拠点に、温泉施設と農業施設を連携させた農泊事業とテレワークを結びつけた施設利用のあり方など、関係人口を増やすための方策を検討するのも良いのではないか。 ● 新たな複合施設を建てることが理想ではあるが、市の財政上難しいと思うので、既存施設で不要なものを整理した上で、山田公民館を行政機能や他の機能をあわせた多世代利用可能な複合施設とすることが現実的だと思う。 ● 山田地域にとって必要不可欠な機能を持った公共施設はどこかを選び、統廃合のあり方も含めてその施設をどのような形で残すことが望ましいのかを検討していく必要がある。 ● 山田公民館で秋に開催している子どもたちの発表会などは、学校の体育館でできるので老朽化の時期にあわせて廃止することを検討しても良いと思う。